九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

チーム活動における「暗黙の協調」に関する実証的研究

秋保，亮太

https://doi.org/10.15017/1806795

出版情報：九州大学，2016，博士（心理学），課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏　　名	秋　保　亮　太
論　文　名	チーム活動における「暗黙の協調」に関する実証的研究
論文調査委員	主査　九州大学　教授　山　口　裕　幸 副査　九州大学　教授　中　村　知　靖 副査　九州大学　准教授　池　田　　浩 副査　九州大学　准教授　木　村　拓　也

論文審査の結果の要旨

本論文は，チーム活動の効率化に重要な機能を果たす成員間の“暗黙の協調(implicit coordination)”に焦点をあて、この社会心理学的特性が、いかなる過程を経てチームに備わるのか明らかにすることを目的として、質問紙調査や実験室実験、現場実験等の多様な実証的検討を行って、その発生・促進・維持メカニズムの解明に取り組んだものである。

質問紙調査によって、メンタルモデルを共有しているチームは、メンバー間の対話は少なくても成果を挙げることを明らかにするとともに、“暗黙の協調”がチームに備わるには，メンタルモデルの共有化が重要な役割を果たすことを示唆する結果を得た。この知見に基づき、協調ゲーム課題を用いた実験室実験を行って、“暗黙の協調”が実現に至る過程やその促進要因について検討した。その結果，“暗黙の協調”の実現はチームで課題遂行プロセスを振り返ることにより促進されることを明らかにすることにつながった。さらに、これらの成果を踏まえて、“暗黙の協調“の世代間継承の有無について議論を行った。実験室実験の結果，メンバーの入れ替わり時における社会的学習によって，”暗黙の協調“が維持される可能性を示すエヴィデンスを得ることに成功した。

本論文は、チームワークの行動的側面と心理的側面の双方を合わせて，“暗黙の協調”の創発に影響する変数の関係性を複合的に捉え直し，これまでのチームワークに関する社会心理学的研究の成果を統合的に理解し、その発展に寄与するものとなっている。現状の研究における限界と今後の課題も的確に認識されており、今後さらなる研究の発展が期待される。これらの研究の成果は、学会においても高く評価されており、研究テーマは心理学としての学術的価値の高さのみならず、チームマネジメントに関する有益な実践的提言につながるものとしても評価できる。よって，本論文は博士（心理学）の学位に値するものと認める。